

令和7年11月26日
時点



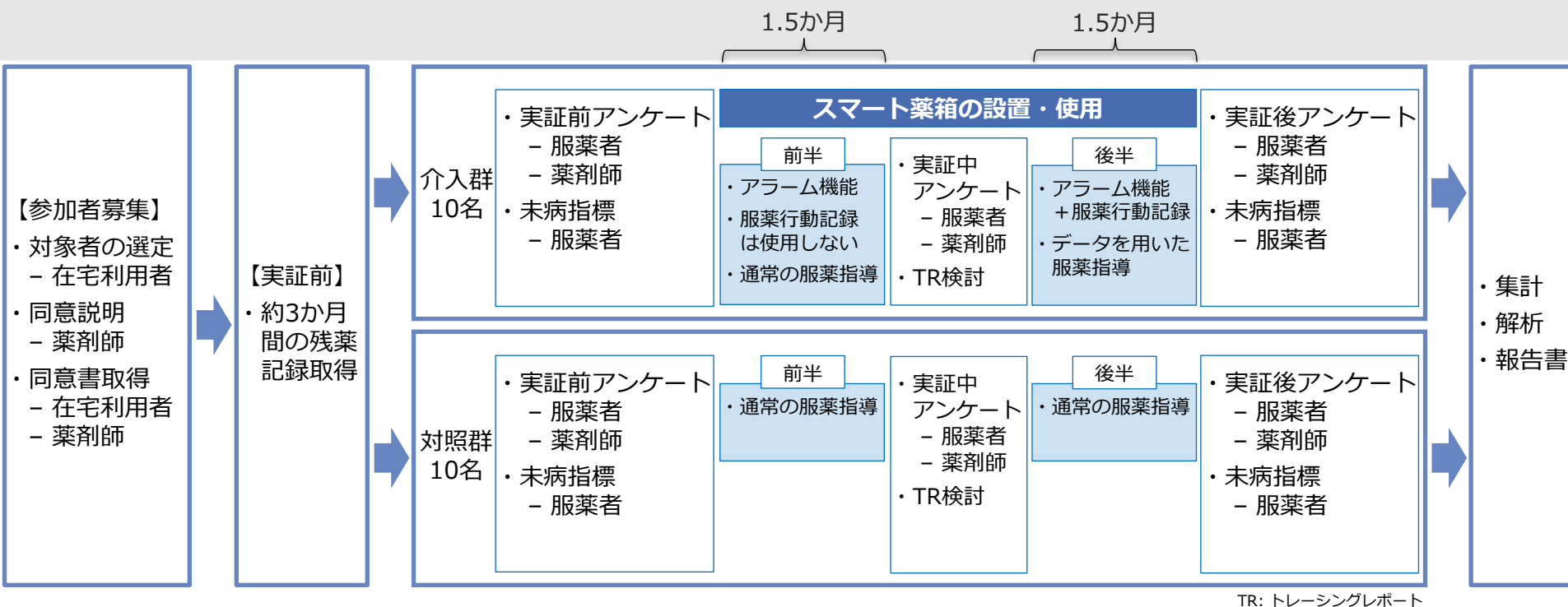
令和7年度採択事業
SMK株式会社、川崎市薬剤師会、横浜薬科大学
スマート薬箱の活用と服薬アドヒアランスの向上
効果に関する探索的研究

実証事業の概要

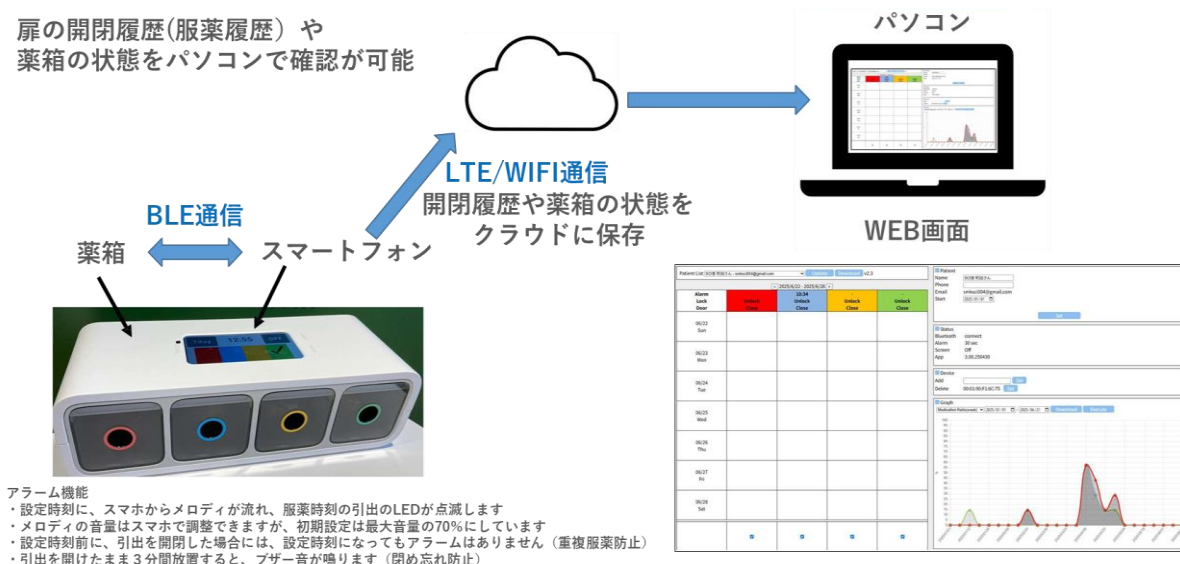
- 慢性疾患治療中の患者さんの中には、「飲み忘れ」や「服薬時間を意識できない」といった適切にお薬を服用することへの悩みを抱えている方がいます。
- 一方、薬剤師も実際の服薬状況を把握しづらいという課題があります。
- そこで本実証では、スマート薬箱による服薬時間通知と行動記録を活用し、患者さんの行動変容や薬剤師の服薬支援効果を検証するために、川崎市薬剤師会会員薬局における在宅訪問患者さんを対象とした実証事業を行います。

- (1) 実証事業者：SMK株式会社、川崎市薬剤師会、横浜薬科大学（専任講師：長嶋大地）
- (2) テーマ名：スマート薬箱の活用と服薬アドヒアランスの向上効果に関する探索的研究
- (3) 対象となる未病領域：服薬行動に関する意識・行動変容
- (4) 実施期間：令和7年10月から
令和8年 3月（予定）
- (5) 実証事業参加者：下記の基準を満たす20名程度（予定）
 - ・ 18歳以上の男女。
 - ・ 在宅医療を受けている患者さん。
 - ・ 日本語の質問紙表や指示を理解できる方。

【実証概要図】



扉の開閉履歴(服薬履歴)や
薬箱の状態をパソコンで確認が可能



スマート薬箱：SMK株式会社



(6) 実施内容：

項目	内容
参加募集者	○ 川崎市薬剤師会会員薬局の利用者において、本実証事業への参加にあたり十分な説明を受け、本人の自由意思により同意を得る。
介入手順	○ 実施期間は3か月間であり、参加者の自宅等にスマート薬箱を設置して使用する介入群（10名）と、設置しない対照群（10名）に群分けする。 ○ 介入群において、前半（1.5か月間）は従来通りの服薬指導を行い、後半（1.5か月間）はスマート薬箱から送信される服薬行動記録を閲覧のうえで服薬指導を行う。
実施方法	【実証前】 - 服薬状況調査、スマート薬箱の配布・設置、薬剤師への説明会、実証前アンケート、未病指標の測定 【実証中】 - 実証中アンケート、服薬行動データ収集（常時）、服薬行動記録の確認（薬剤師）、服薬フォロー（介入前半は服薬行動記録を使用しない / 介入後半は服薬行動記録を使用する）、医師へのトレーシングレポート（TR）検討 【実証後】 - 実証後アンケート、未病指標の測定、服薬行動記録の評価、服薬フォローの事例検討、TR事例検討、行動変容の評価 【データ解析】 - 実証前後差異分析、対照比較分析、行動変容の解析
評価項目	○ 主要評価項目：スマート薬箱利用前後での服薬行動の達成率 ○ 副次評価項目：① 服薬者の服薬アドヒアランスへの悩み解消度（心理的負担、ストレス、意欲、薬剤師との関係性等）、② 服薬状況の把握と服薬フォローの変容点、③ 利用希望の有無と負担できる価格帯、④ 未病指標
評価	○ 介入の有無および前後での行動変容の評価。 ○ 薬剤師の服薬状況の把握と服薬支援フォローの変容点の評価。